

# 木や石を彫る

石や木、動物の角や牙などを印材に用い、印鑑をつくって書や画に押印することは、古くから作品の制作者や真偽の証明などに使われる以外にも、造形的に鑑賞の対象として親しまれてきました。印鑑の印面を彫ることを篆刻てんこくと言います。文字や絵柄を彫り、世界に一つだけの印鑑をつくりましょう。

## I 篆刻の印面を考えましょう。

(1) 文字を残すのか（朱文・陽刻）、文字を彫るのか（白文・印刻）、彫る文字や文字数を決めましょう。

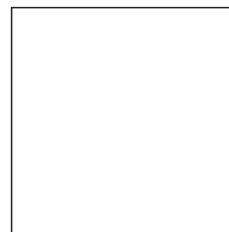
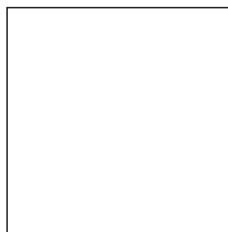
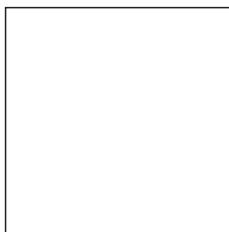
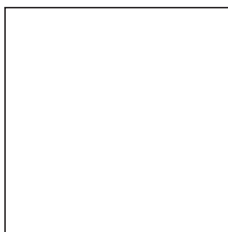


朱文、陽刻とも言う。文字が赤くなる。文字の保護の観点から、枠線を残したデザインにする。



白文、陰刻とも言う。文字が白くなる。画数が多い文字など細やかな線が彫りやすい。

(2) 枠内にデザインを決め、赤くなる部分を鉛筆で塗りつぶしましょう。



## II 篆刻の持ち手（鈕ちゆう）の部分を考えましょう。

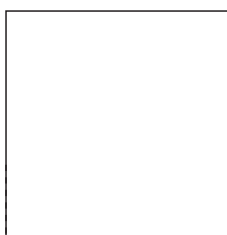
(1) 印鑑を斜めから見た様子をスケッチしましょう。

(2) 立体の様子がわかるように、正面図、側面図、背面図、上図を原寸大で描きましょう。

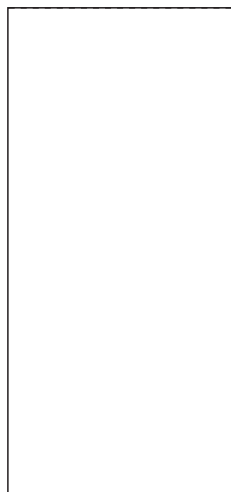
持ち手が細かったり、尖っていたりすると持ちにくいので注意しましょう。また、印鑑の強度のためには、印面から 15 ~ 20mm の厚みが必要です。



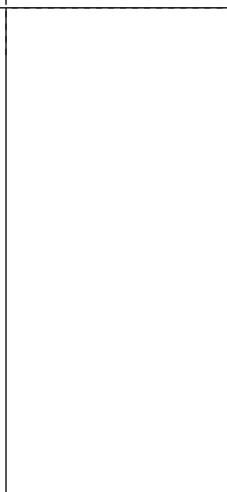
【鈕のデザイン】



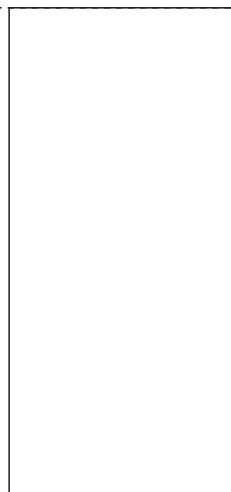
上図



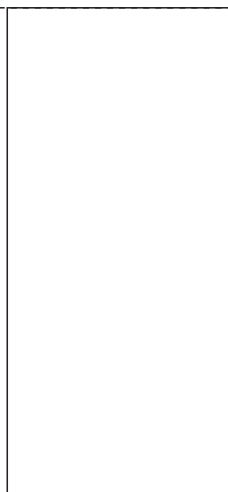
正面



側面



背面



側面